

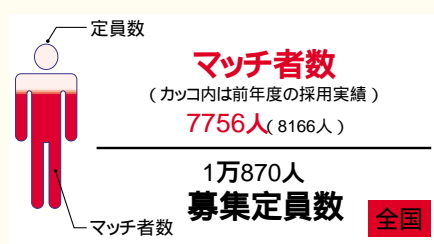
医師臨床研修必修化 日本の医療はどう変わる?

初年度研修医マッチングにみる 都道府県別研修医 募集定員とマッチ者数

これまでの臨床研修は大学病院を中心に行なわれ、約4分の3の研修医が大学病院で研修を行ってきた。しかし先日、日本で初めて実施された研修医マッチング(8283人が参加)の結果によれば、組み合わせが決まった参加者(マッチ者)のうち58.8%が大学病院に、41.2%が臨床研修病院に決定し、従来と比べ研修希望者の10数%が大学病院から地域の臨床研修病院へシフトした。厚労省は臨床研修病院の指定基準を大幅に緩和しており、昨(2003)年8月までに、前年実績のほぼ倍にあたる946病院(大学病院を含む)が指定申請を行なっている。地域での研修の場も広がりつつあるといえる。

図は、研修医マッチングの結果に基づき、都道府県別に研修医定員数、マッチ者数、昨年度の研修実績を表したものだ。懸念されていた研修医の都市部への集中はみられていない。しかし、地域ごとの研修医数にはかなりの差が残っている。

また、臨床研修病院の数は倍増の勢いをみせているものの、地域によってその整備状況にはばらつきがある。本紙が行なった調査によれば、昨年11月18日の時点で、全国の2次医療圏370のうち、臨床研修病院および大学病院(いずれも単独型もしくは管理型、現在申請中のものを含む)を持たない医療圏は109(29.5%)であり、前年の149(40.9%)に比べれば改善しているものの、依然3割を占める。図では、都道府県ごとに色分けをし、それぞれの2次医療圏における研修病院(大学病院を含む)の整備状況を示した。厚労省は今後、すべての2次医療圏に最低1つの研修病院を置きたいとしている。



- 2次医療圏のすべてに研修病院あり
- 2次医療圏の75%以上に研修病院あり
- 2次医療圏の50%~75%に研修病院あり
- 2次医療圏の25%~50%に研修病院あり
- 2次医療圏の25%未満に研修病院あり

図では人の形を用いて、都道府県ごとの研修医の募集定員が、マッチングによりどの程度充足されたかを視覚的に示した。データは、医師臨床研修マッチング協議会発表のものによった。また、研修病院(単独型もしくは管理型、大学病院を含む)が存在する2次医療圏がどれくらいあるのか、を都道府県ごとに色分けによって示した。このデータは2003年11月18日に行なった本紙調査によるもので、申請中で認定見込みの研修病院を含んでいる。

